

第 1 回 長崎市中部下水处理場跡地活用検討委員会

1. 開会

○事務局より開会の挨拶

2. 挨拶

○土木部長より挨拶

○配布資料の確認

3. 委員紹介

○事務局より出席者名簿の順に紹介。

4. 委員会の設置

○「資料 1」および「資料 2」について事務局から説明

5. 委員長及び副委員長の選出

○（委員長・副委員長の選任）

- ・谷川委員から推薦があり、委員長については、長崎大学の渡邊委員を選出。（全委員了承）
- ・渡邊委員長から推薦があり、副委員長については、活水女子大学の毛利委員を選出。（全委員了承）

○「資料 3」について事務局から説明

○（会議の公開・非公開の取り扱い）

- ・本委員会の審議は、原則、公開とする。
- ・審議の内容によっては、公開・非公開の判断について、改めて委員会に諮り判断する。

○（会議録の作成の取り扱い）

- ・事務の簡素化等を踏まえ、要点記録とする。（ただし、会議全体の録音は行う）
- ・委員長が会議の冒頭に、出席者の中から署名人 2 名を指名し、委員長を含めた 3 名で会議録の署名を行うものとする。
- ・本日の会議録の署名人として、渡邊委員長が渡辺委員と川瀬委員を指名し、両名の了解を得た。

6. 報告

(1)平和公園スポーツ施設の再配置について

○「資料 4」について事務局から説明

質疑応答

【委員】

・ パース図に駐車場が描かれているが、スタジアムシティには既に約 800 台の駐車場があり、平日は十分な余裕がある。民業圧迫を避け、土地を有効活用するためにも、駐車場以外の活用方法を検討すべきではないか。

【事務局】

・ 来訪者向けの駐車場をイメージとして描いていたが、西部下水処理場までつながる関連施設が敷地内を通過しており、その管理のため土地利用の制約がある。公共交通機関の利用状況も踏まえて、当該敷地に駐車場が本当に必要か検討いただきたい。

【委員】

・ 陸上練習機能（400mトラック）及び多目的広場については、市のスポーツ施設と広場のどちらで計画しているのか。また、スポーツ施設であれば有料として計画するのか。

【事務局】

・ 広場としての位置づけで考えている。使用料金については、松山町市営陸上競技場での運用を踏まえて検討していきたい。

【委員】

・ 地域の期待感はすごく大きい。「地区に公園がない」、「小さな公園で子供たちが遊べるような公園がない」といった意見も出ている。銭座地域は非常に利便性に恵まれた地域であり、皆さんが集える癒しと安らぎのある施設を作っていただきたい。また、当時の連合自治会長から、「移転する際は優先的に地域の意見を聞いてもらう」との話を伺っている。

【事務局】

・ 色々な立場からの意見を整理していきたい。

【委員】

・ 陸上練習機能（400mトラック）が茂里町へ移動することで、視覚障害者をエスコートする点字ブロックに慣れるまで介助が必要になる。視覚障害者へ特に配慮いただきたい。

【事務局】

・ 人が多く集まる施設なので、バリアフリーの観点、移動の円滑化も含めて検討したい。

【委員長】

- ・計画を考えるときの検討事項として、インクルーシブの観点も反映させていただきたい。

(2)審議の内容とスケジュール

○「資料 5」について事務局から説明

質疑応答

【委員】

- ・多目的広場と陸上練習機能（400mトラック）の利用について、調整、ルールをどうやって決めるのか。議論の前提として、陸上関係者の意見（利用頻度や利用人数、陸上関係者の要望など）をどう調整し、最終的な活用方法に持っていくのか。

【事務局】

- ・陸上団体と機能や使い方について協議の上でイメージパスを作っている。松山町市営陸上競技場も陸上専用ではなく、多目的広場という視点がある。共存することは必要だが、先ずはこの多目的広場がどうなれば、長崎市にとって良いのかを議論していただきたい。
- ・陸上練習機能（400mトラック）については逐次協議を行っているので、使い方に影響がある部分はこの委員会でも説明を行いたい。

【委員】

- ・委員の方に、今現在の松山町市営陸上競技場の利用状況を伝えるべきではないか。

【事務局】

- ・松山町市営陸上競技場は外周通路の歩行やジョギングでの利用が多い。外周通路については、プールが配置されても、形は少し変わるが残す予定である。
- ・陸上競技場部分は、多くの高校の部活動で使われている。陸上専用ではなく、多くの市民が使える広場として、陸上の練習もしている状況である。
- ・朝にはラジオ体操の場として利用されており、プール配置後もこのような活動は継続可能である。
- ・中部下水処理場跡地に松山町市営陸上競技場の一部の機能は移転するが、全部が無くなるわけではなく、外周路や広場は残すこととしている。

【委員】

- ・スケジュールがかなりタイトだが、ワークショップも含めた十分な意見をまとめて、最終の取りまとめまでいけるのか。
- ・松山町市営陸上競技場ではスポーツ施設の中の 1 つだったが、今回は周辺に様々な集客施設があり、若干意味合いが異なる。公園機能も必要だが、周辺との親和性として、ここを中心に広がる場所とするために、建物や複合的な陸上練習機能（400mトラック）だけでない施設が幾つか点在し、そこに市民や、医療系の方も来られて、ゆっくり憩いの場として過ごし、同時に商業的なものも発生する機能は検討できるのか。

【事務局】

- ・スケジュールはタイトであるが、これに基づいて進めたいと思っている。議論の中で、必要となれば追加等も考えたい。
- ・複合的な機能は、移す機能と求められる機能があるため、考えながら作っていきたい。

【委員】

- ・ワークショップを 2 回開催するが、対象者や応募方法について地域の方が参加できるものか、どのように検討されているのか。
- ・資料 5 の JR 高架下について、道路と公園の間に段差がついていないのか。横断歩道もなく、JR 高架下の利用というのはかなりハードルが高いのではないのか。

【事務局】

- ・ワークショップは、誰でも参加できる形を考えている。募集方法は、詳細については未定だが市民に応募をかけ、その他 SNS などを使いながら、色々な人に参加いただきたい。
- ・高架下の利用については、今回の対象範囲は、段差がないところになる。横断歩道等の意見も今後聞かせていただきたい。

7. 議事

(1)中部下水処理場跡地活用に関する意見交換

○「資料 6」について事務局から説明

質疑応答

【委員】

- ・緑を想定した活用になれば、ハード、ソフトでシームレスに繋がることで、相乗効果も出る。スタジアムシティ駐車場がこの施設の利用者に活用いただけるのであれば、出入口から回らずに繋がるような整備ができればと感じている。
- ・歩道が反対側に入っており、スタジアムシティに行くために道路を渡らないといけない。来場者が互いに意識なく行けるようにするため、どのように一体的な隣接地との融合化を図ろうとされているのか。

【事務局】

- ・ハートセンター側については、ハートセンター前で歩道が途切れて一旦 JR 高架側に渡って高架に沿って行くような動線となっている。また、スタジアムシティ側についてもスタジアムシティの方に入っても歩道がない状況となっている。このため何かしらの方法で、誘導する形で繋げていく必要がある。そういった意見も聞きながら、この動線について考えていきたい。

○「資料 7」について事務局から説明

質疑応答（各委員からの意見）

【委員】

- ・障害があっても使いやすいインクルーシブは、基本理念という形で分けたほうがいい。
- ・近隣人口の増加は、子育て世代の方が多くなっているからであり、子供の遊び場に注目するのもいいと思うが、今後の時代を考えれば、アクティブシニアの生きがいにも着目しているのではないかな。子供だけでなく、世代を支えるようなシニアの生きがい、健康も施策の中にも盛り込んでいけば、より良い施設の活用ができると思う。

【委員】

- ・陸上練習機能（400mトラック）の周りに集えるような場所を作っていただきたい。地域の若者から、スケートボードの競技施設がこの中心部にあったらどうかという意見をお聞きしたが、騒音や若者が集まるということで、近隣関係者からは困るという意見もある。

【委員】

- ・トイレの清掃回数など衛生面について、男女兼用スペースがあるのか、おむつ替えスペースがあるのか、維持管理についても考えていただきたい。
- ・より大型で魅力的な遊具の導入により、子育て世代の利便性向上と町の活性化を促進できると思う。また、ユニバーサルデザインで、障害の有無を問わず誰もが楽しめる遊具を配置していただきたい。
- ・駐車場に関して、周辺に駐車場があっても、小さい子供がいる家庭は少し遠い印象がある。公園で遊ぶ目的の方は、すぐ近くに駐車場があればアクセスがしやすい。せっかく作るのであれば、1か所は設けていただけると助かる。また、スタジアムシティの試合日でも確実に駐車できるスペースが欲しい。
- ・高架下の利用として、キッチンカーやカフェなど飲食スペース、夜間のアルコール販売施設など、陰ができて涼しい場所なので、そういった方向も考えていただきたい。

【委員】

- ・公園機能に加え、大手企業の資本を活用した食育施設など、これまでにない施設を誘致することで、誰でも楽しめる施設が実現できる。そうした施設に遊びに来る、見に来るということが、周辺との親和性も持ちながら、相乗効果を生み出す。長崎には今までなかった、企業が事業イメージを高めるための施設として、誘致を検討していただきたい。
- ・暑さ対策として、屋根やカフェなどの休憩・涼める場所を公園内に整備する必要がある。
- ・緊急避難場所として想定される状況を明確にし、それに必要な設備や環境を整えること、多くの利用者にとって使いやすい環境設計を検討していただきたい。

【委員】

- ・陸上関係者の考えとして、トラック競技とイベント広場の融合は非常に難しい。
- ・高速ランナーの練習時に子どもがトラックに侵入すると、重大事故のリスクが高い。

- ・スポーツ施設と多目的広場のどちらにするのか、管理者を明確化する必要がある。
- ・利用時間帯に応じた用途の使い分けルール（部活動やスポーツ利用時間と一般利用時間を分離するなど）を整理する必要がある。
- ・利用料金体系やスポーツ保険の必要性を検討する必要がある。
- ・施設だけ整備し「自由に利用」とするのではなく、安全性を確保するための具体的なルールやすみ分けが不可欠である。

【委員】

- ・トイレ設備は、障害者が自然に使用できるデザインかつ、介助犬の利用者にも対応した衛生管理もやっていただきたい。
- ・陸上競技トラックは、車椅子マラソン練習の場として活用や、安全な利用方法のルール整理が必要である。
- ・避難所としての環境は、バリアフリー設備の完備や、色彩選択など心理的配慮（落ち着きやすい環境づくり）をしていただき、特性のある障害者向けの専用スペースを確保してほしい。

【委員】

- ・大きな木があり、用事がなくても立ち寄りたくなるような広場があって、その中で季節の花々があるといった環境が作られればと思う。
- ・シンボリックな木もしくはモニュメントなど、訪れたいものを作られればと思う。
- ・駐車場については来場者用に必要だと思う。

【事務局】

- ・長崎青年会議所 寺澤委員の事前コメントを紹介。
- ・「周辺に十分な駐車場があったとしても、来場者用駐車場を作ることによって来場しやすくなる。動線を十分に検討した上で、陸上練習機能（400mトラック）を JR 高架下へ移動し、浦上川側に駐車場をつくることも検討したかどうか。」
- ・「キャンプサイトとしての利用は検討できないか。広場としての利用もできるし、キッチンカーなどの利用もできるので、利用目的等が広がるのではないか。」
- ・「駅前や MICE 前などでは駐車場周辺で車両が滞留している。この多目的広場に駐車場をつくる場合においても、車が滞留しないような動線計画が重要となる。」
- ・「広場は柵を作り過ぎずに、様々なところから人が通り抜けられるようにした方が、いろいろな人に使いやすい場所になる。」
- ・「広場周辺の施設にはカフェなどの施設があった方が人と交流を創出できるかと思う。民間の自営業者の活用などにも柔軟な対応ができるよう、計画段階から施設の形状やスペックについて専門的、実際に商売している方などの意見を取り入れた方がよいと思う。」

【副委員長】

- ・外部からの視認性を重視し、高架橋に囲まれた立地でも見通しが良く心地よく見える設計が必要になる。

- ・駅から 15～20 分の良好なアクセスを活かしたウォークアブルなまちづくりを推進すべきである。
- ・暑さ対策や風通しなど環境的にポジティブな配慮が必要になる。
- ・地盤レベルの設定や防災機能（防災倉庫、貯水タンク、トイレ配管、ヘリポート機能など）の充実も必要になる。
- ・回遊性という視点で見ると、高架下の使い方について線的に特徴を持った長い路線が今空いているので、例えば遊歩道ではないが、屋根の下を歩けるスペースなど、どのぐらいの可能性があるので整理する必要がある。
- ・Park-PFI などの制度を活用した持続可能な運用体制の構築など、今後の運用としてどのような設定をされているのか気になった。
- ・バリアフリー対応に加え、センサリーガーデンなど五感に訴える環境づくりが重要である。

【委員長】

- ・時間が押しているため、コメントは割愛する。

(2) アンケート調査の内容について

○「資料 8」について事務局から説明

質疑応答

【委員長】

- ・質問項目が多岐に渡るため、一定期間を置き、意見は後日事務局に方に連絡いただくこととする。

【委員】

・昨年のアンケートの中に、宝町バス停前の宝町公園バス停についての質問事項があったが、今回はどういう意図で外されたのか。公園自体を今後、今の状態で使うのか、バスレーンを 1 レーン宝町公園の中に入れて使うのか。

【事務局】

- ・今回は近くにある宝町公園について、同じ機能として残すべきか、地域の方がどのように思っているかを知るために、質問させていただいた。
- ・今回は中部下水処理場跡地について議論し、その機能の方向が決まることで、次に宝町公園をどうするかという方向になるため、一旦外させていただいている。

【委員】

- ・松山町市営陸上競技場施設の利用実態（利用者、利用時間帯など）について、アンケートを取っているのであれば、結果の提示をしてほしい。
- ・陸上関係者のニーズ把握が重要であり、ルール作成の際は、陸上関係者の期待を事前に理解した上で、具体的な条件や機能を決めていきたい。

【委員】

- ・陸上協会に多目的広場になることを伝えているのか。ルール作りをしっかりとしてほしい。

【事務局】

- ・陸上専用ではなく多目的広場であるという共通認識で話をしている。

【委員長】

- ・他に意見等はないか。
- ・都市計画の中では、「暫定性」という、社会の急速な変化に対応するため、完全に固定化された施設ではなく、容易に改変・除去できる柔軟な施設設計が求められる考え方がある。
- ・単一の公園内にとどまらず、公園を核として周辺施設を結ぶ広いスケールでの利便性向上が必要と思う。
- ・異なる利用形態の対立を調整する仕組みが重要であり、図面作成だけでなく、その背後にあるルールや方向性を明確にすることを、委員会で示す必要があると思う。
- ・活発な議論をいただき、また、会議の進行に協力いただき、感謝する。

閉会

○事務局より閉会の挨拶